

シラバス参照

科目名	薬理学A
配当年次	2年次
開講期間	秋学期
単位数	2
担当教員	袁 博(エン パク) 岡崎 真理(オカザキ マリ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 木曜日 1時限 10-302

※	
授業の目的・目標	<p>授業の概要: 中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用)および臨床適応を取り扱う(PHP251JY)。 授業の目的: 中枢神経系や免疫系に作用する薬の効くプロセスについて、生体の機能と薬効がどのように関係しているか、また、副作用についても、薬効との関連を修得する。 修得できる力: 知識・理解 DP③◎ 到達目標: 中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用)および臨床適応を通して、疾病の病態・薬物治療に関する基本知識を修得し、医薬品の適正使用に関する基本事項を修得する。</p>
準備学習等の指示	<p>授業開始前には、下記の講義スケジュールにより、当日の授業内容を事前に教科書やWebClass等に示される資料で確認してください。授業終了後には、必ず教科書・資料等により、当日の授業内容を復習してください。また、WebClassに掲載されている演習問題に繰り返し取り組み、間違えた問題やわからない問題の内容については、解説をよく読み、さらに教科書・資料に戻って確認してください。尚、概ね3時間30分程度の学習内容となります。</p>
講義スケジュール	<p>1 中枢神経系1 中枢神経系の構造と機能について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 H25[C7-(1)-④-1], E2-(1)-④-1]] (岡崎) 中枢神経系の伝達物質及び受容体について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 H25 [C7-(2)-①-1),-2), E2-(1)-④-1]] (岡崎)</p> <p>2 中枢神経2 全身麻酔薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 H25[E2-(1)-③-1), -④-1]] (岡崎)</p> <p>3 中枢神経3 催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 H25[E2-(1)-③-1), -④-1]] (岡崎)</p> <p>4 中枢神経系4 てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-7), -④-1]] (岡崎)</p> <p>5 中枢神経系5 Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-9), -④-1]] (岡崎)</p> <p>6 中枢神経系6 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-4), -④-1]] (岡崎)</p> <p>7 中枢神経系7 うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-5), -6), -④-1]] (岡崎)</p> <p>8 中枢神経系8 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)について説明できる。これらの臨床適用(WHO三段除痛ラダーを含む)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-2), -④-1), -(7)-⑨-1),-2]] (岡崎)</p> <p>9 中枢神経系9 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)、脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)、片頭痛について、治療薬や中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25 [E2-(1)-③-3),-8),-10),-11), -④-1]](岡崎)</p> <p>10 免疫薬理1 免疫・炎症・アレルギーに関与する生理活性物質(オータコイド、サイトカイン、増殖因子)の生理活性および作用機構について概説できる。 H25[C7-(2)-③-1),-2]] (袁)</p> <p>11 免疫薬理2 アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 H25[E2-(2)-②-1), -④-1]] (袁) アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支ぜん息、アナフィラキシーショックなどのアレルギー疾患に用いられる治療薬治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(2)-②-3),-4),-5),-6), -④-1]] (袁)</p> <p>12 免疫薬理3 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 H25[E2-(2)-①-1),-2),-3), -④-1]] (袁)</p>

	13 免疫薬理4 免疫抑制薬、自己免疫疾患治療薬および臓器移植領域の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 H25[E2-(2)-(2)-2,-7,-8,-9), -(4)-1), -(3)-(1)-1,-2,-3]](袁)
教科書	医療薬学・最新薬理学 第10版(廣川書店)、プリント資料
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパス薬理学 改訂第3版(南江堂) ・医療薬学Ⅱ(スタンダード薬学シリーズⅡ-6薬の作用と体の変化および薬理・病態・薬物治療(1)および薬理・病態・薬物治療(2)(東京化学同人) ・NEW薬理学改訂7版(南江堂)
授業の方法	講義(95%):教科書、プリントに基づいて行う。 演習(5%):毎回の講義内容についてWebClass等で実施する。 演習・小テストの結果について、適宜フィードバックを実施する。
成績評価方法	1. 評価方法:筆記試験、2. 割合:本試験90%、小テスト10%、3. 評価基準:本試験と小テストの設問に対する理解度を学習目標の達成度に換算して評価する。
オフィスアワー	月曜日～金曜日の午後(講義・実習時間、会議時間を除く)
居室	岡崎:21-510、袁:21-507
ホームページ	
その他特記事項	この講義は、生理学A,B、解剖学、細胞生理学、免疫学、基礎薬理学と密接に関連するため、それらの理解を深めておくことが重要です。
添付ファイル	

シラバス参照

科目名	薬理学A
配当年次	2年次
開講期間	秋学期
単位数	2
担当教員	袁 博(エン パク) 岡崎 真理(オカザキ マリ)
期間・曜日・時限・教室	秋学期 木曜日 2時限 10-102

※	
授業の目的・目標	<p>授業の概要: 中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用)および臨床適応を取り扱う(PHP251JY)。 授業の目的: 中枢神経系や免疫系に作用する薬の効くプロセスについて、生体の機能と薬効がどのように関係しているか、また、副作用についても、薬効との関連を修得する。 修得できる力: 知識・理解 DP③◎ 到達目標: 中枢神経系や免疫系に作用する医薬品の薬理(薬理作用、機序、おもな副作用)および臨床適応を通して、疾病の病態・薬物治療に関する基本知識を修得し、医薬品の適正使用に関する基本事項を修得する。</p>
準備学習等の指示	<p>授業開始前には、下記の講義スケジュールにより、当日の授業内容を事前に教科書やWebClass等に示される資料で確認してください。授業終了後には、必ず教科書・資料等により、当日の授業内容を復習してください。また、WebClassに掲載されている演習問題に繰り返し取り組み、間違えた問題やわからない問題の内容については、解説をよく読み、さらに教科書・資料に戻って確認してください。尚、概ね3時間30分程度の学習内容となります。</p>
講義スケジュール	<p>1 中枢神経系1 中枢神経系の構造と機能について説明できる。神経系の疾患に用いられる代表的な薬物の基本構造と薬物(薬理・薬物動態)の関連を概説できる。 H25[C7-(1)-④-1], E2-(1)-④-1]] (岡崎)</p> <p>2 中枢神経2 全身麻酔薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 H25[E2-(1)-③-1], -④-1]] (岡崎)</p> <p>3 中枢神経3 催眠薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適用を説明できる。 H25[E2-(1)-③-1], -④-1]] (岡崎)</p> <p>4 中枢神経系4 てんかんについて、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-7], -④-1]] (岡崎)</p> <p>5 中枢神経系5 Parkinson(パーキンソン)病について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-9], -④-1]] (岡崎)</p> <p>6 中枢神経系6 統合失調症について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-4], -④-1]] (岡崎)</p> <p>7 中枢神経系7 うつ病、躁うつ病(双極性障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 不安神経症(パニック障害と全般性不安障害)について、治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-5], -6], -④-1]] (岡崎)</p> <p>8 中枢神経系8 麻薬性鎮痛薬、非麻薬性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)について説明できる。これらの臨床適用(WHO三段除痛ラダーを含む)を説明できる。 H25[E2-(1)-③-2], -④-1], -(7)-⑨-1], -2]] (岡崎)</p> <p>9 中枢神経系9 認知症(Alzheimer(アルツハイマー)型認知症、脳血管性認知症等)、脳血管疾患(脳内出血、脳梗塞(脳血栓、脳塞栓、一過性脳虚血)、くも膜下出血)、片頭痛について、治療薬や中枢興奮薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25 [E2-(1)-③-3], -8], -10], -11], -④-1]] (岡崎)</p> <p>10 免疫薬理1 免疫・炎症・アレルギーに関与する生理活性物質(オータコイド、サイトカイン、増殖因子)の生理活性および作用機構について概説できる。 H25[C7-(2)-③-1], -2]] (袁)</p> <p>11 免疫薬理2 アレルギー治療薬(抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬等)の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 H25[E2-(2)-②-1], -④-1]] (袁)</p> <p>12 免疫薬理3 アトピー性皮膚炎、蕁麻疹、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、消化管アレルギー、気管支ぜん息、アナフィラキシーショックなどのアレルギー疾患に用いられる治療薬治療薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および病態(病態生理、症状等)・薬物治療(医薬品の選択等)を説明できる。 H25[E2-(2)-②-3], -4], -5], -6], -④-1]] (袁)</p> <p>12 免疫薬理3 抗炎症薬(ステロイド性および非ステロイド性)および解熱性鎮痛薬の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 H25[E2-(2)-①-1], -2], -3], -④-1]] (袁)</p>

	13 免疫薬理4 免疫抑制薬、自己免疫疾患治療薬および臓器移植領域の薬理(薬理作用、機序、主な副作用)および臨床適応を説明できる。 H25[E2-(2)-(2)-2,-7,-8,-9), -(4)-1), -(3)-(1)-1,-2,-3]](袁)
教科書	医療薬学・最新薬理学 第10版(廣川書店)、プリント資料
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・コンパス薬理学 改訂第3版(南江堂) ・医療薬学Ⅱ(スタンダード薬学シリーズⅡ-6薬の作用と体の変化および薬理・病態・薬物治療(1)および薬理・病態・薬物治療(2)(東京化学同人) ・NEW薬理学改訂7版(南江堂)
授業の方法	<p>講義(95%):教科書、プリントに基づいて行う。</p> <p>演習(5%):毎回の講義内容についてWebClass等で実施する。</p> <p>演習・小テストの結果について、適宜フィードバックを実施する。</p>
成績評価方法	1. 評価方法:筆記試験、2. 割合:本試験90%、小テスト10%、3. 評価基準:本試験と小テストの設問に対する理解度を学習目標の達成度に換算して評価する。
オフィスアワー	月曜日～金曜日の午後(講義・実習時間、会議時間を除く)
居室	岡崎:21-510、袁:21-507
ホームページ	
その他特記事項	この講義は、生理学A,B、解剖学、細胞生理学、免疫学、基礎薬理学と密接に関連するため、それらの理解を深めておくことが重要です。
添付ファイル	